家庭数

令和４年６月３０日

芝山小だより

７月号
清瀬市立芝山小学校
校長　　寺井　俊敬
http://www.kiyose.ed.jp/

「ふれあい月間を終えて」

生活指導主任

「先生、〇〇さんが嫌なことをしてきます。」「いやだからやめてって言ったのにやめてくれません。」このように、学校では様々なトラブルが起こります。トラブルが起こった時に、私はよくある絵本の一場面を思い出します。「バムとケロのにちようび」(文溪堂　島田ゆか作)、犬のバムとかえるのケロのお話で、子供たちにも大人気の絵本です。

ある雨の日の日曜日、バムはケロが散らかした部屋を頑張って片づけて掃除します。そこへ全身泥だらけのケロが無邪気に部屋に入ってきます。せっかくきれいにしたのに部屋中が泥だらけになってしまいます。

ここまで極端な状況はありませんが、学校ではこのようなことが起こったら口論になったり、けんかに発展してしまったりするでしょう。ところがバムは驚いたような表情をしますが、ケロを非難することもけんかすることもしません。ケロの行動は困ったものですが、それ以上にケロのいい所をたくさん知っているからこそ、ケロの行動を許す気持ちになれたのでしょう。その後二人は仲良くおやつを作ったり、本を読んだりして楽しく過ごします。

さて、６，１１，２月は「ふれあい月間（いじめ防止強化月間)」です。いじめや不登校、暴力などの問題行動を未然に防止し、子供たちの健全育成を目指して取り組みを行っています。芝山小学校では代表委員会によるあいさつ運動、５年生とスクールカウンセラーとの全員面接、生活アンケート、いじめや人権問題に特化した道徳授業などに取り組みました。今回のアンケートでは、ほとんどの児童が「楽しく学校生活を過ごせている」ことが分かりました。「困った時には誰かに相談し、相談する相手も身近にいる」という児童も多く安心しました。一方で、学年が上がるにつれて「イライラすることがある」という児童の人数が増えています。また、嫌なことがあっても「やめて」と自分から言えない児童も何名かいました。日頃から教職員が一丸となり、トラブルから「いじめ」に発展しないように、「いじめ」のもとを見逃さずに子供の心に寄り添いながら解決に向かうように努めていく必要を改めて感じました。

アンケートからは、「学校が楽しくない」「学校の勉強が分からない」と、自分に自信がなく自己肯定感の低い児童が「相談する相手がいない」「イライラすることがよくある」と回答している傾向が見られました。「ふれあい月間」は終わりましたが、今後も他者の良さを認め、自己肯定感を高める取り組みを継続していきます。バムとケロの関係のように、トラブルがあっても楽しく過ごせるように、誰もが安心して学べる学校を目指していきます。そのためには、家庭、地域との連携が不可欠です。今後ともご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。